

<p>○イギリス産業革命</p> <p>○フランス革命</p>	<p>1754 1760 1726 1775 1789</p>	<p>●デンマーク王立芸術アカデミー創立 Kunsthåndværkerskolen → Danmarks Designskole</p> <p>●スウェーデン、ロールストランド磁器製作所、王立磁器窯として設立</p> <p>●デンマーク、ロイヤルコペンハーゲン(王立磁器製作所 Royal Porcelain Factory) 設立</p>
<p>○フィンランド大公国、スウェーデン王国からロシア帝国へ割譲</p> <p>○キール条約締結(デンマーク、ノルウェーをスウェーデンに割譲)</p>	<p>1800 1809 1814 1825</p>	<p>●スウェーデン、グスタフスベリ製陶所、煉瓦工場から製陶所へ脱却</p> <p>●デンマーク王室御用達のガラスブランド HOLMEGAARD 設立</p> <p>●フィンランド文学協会設立</p> <p>●スウェーデン Söndags-Rit-skola för Handverkare(→ Konstfack) 設立</p> <p>●スウェーデン工芸協会設立 Svenska Slöjdföreningen ※アート・アンド・クラフツ運動の影響下、市民美意識向上の啓蒙等によりスウェーデン製品の向上を目指すデザイン運動団体として</p> <p>●フィンランド民族の歴史と伝説を語る口承詩歌「カレワラ Kalevala」</p> <p>●Elias Lönnrot(エリマス・リョンロート1802-1884)により最終版刊行</p>
<p>○第1回ロンドン万国博覧会(クリスタルパレス)</p> <p>○ニューヨーク万国博覧会</p> <p>○第1回パリ万国博覧会</p> <p>○第2回ロンドン万国博覧会</p> <p>○デンマーク戦争(第二次シュレースヴィヒ=ホルシュタイン戦争)</p> <p>○第2回パリ万国博覧会 ○「デンマーク女性協会」設立</p> <p>○明治維新(明治元年)</p> <p>○モスクワ万国博覧会</p> <p>○スカンディナヴィア通貨同盟デンマークとスウェーデンにより結成</p> <p>○ウィーン万国博覧会</p> <p>○フィラデルフィア万国博覧会</p> <p>○第3回パリ万国博覧会</p> <p>○第4回パリ万国博覧会</p> <p>○シカゴ万国博覧会</p>	<p>1851 1853 1855 1862 1864 1867 1868 1871 1872 1873 1874 1875 1876 1878 1879 1881 1885 1888 1889 1890 1891 1893 1896</p>	<p>●デンマーク、ビング・オー・グレンダール(Bing&amp;Grøndahl) 磁器製作所設立</p> <p>●ヘルシンキ芸術デザイン大学創設 Taideteollinen korkeakoulu → Aalto-yliopisto</p> <p>●フリッツ・ハンセン創業</p> <p>●レルストランド製陶所によるヘルシンキ工場設立(後のアラビア製陶所)</p> <p>●スウェーデン民族博物館「スカンジナビア民俗博物館」 民俗学者アルトゥール・ハゼリウス(1833-1901)によりストックホルムのユールゴーデン島に設立(1880「北方民俗博物館」と改称)</p> <p>●ルイス・ポールセン創業</p> <p>●フィンランド芸術工芸協会設立 Suomen taideteollisuusyhdistys</p> <p>●ノルウェー、イブセン(Henrik Johan Ibsen1828-1906)「人形の家」デンマーク王立劇場で上演</p> <p>●デンマーク王立磁器製作所、Faience Factory Aluminaへ売却</p> <p>●デンマーク、Bing&amp;Grøndahl磁器製作所アート・ディレクターに Pietro Krohn(ピエトロ・クローン1840-1905) 就任</p> <p>●コペンハーゲン国際北欧博覧会</p> <p>●Ellen Key(エレン・ケイ1849-1926) 著書 Skönhet För Alla(Beauty in the Home) 刊行</p> <p>●デンマーク工芸博物館(Kunstindustrimuseet) 設立</p> <p>●SKANSEN(スカンセン/野外博物館)、 民俗学者Artur Hazelius(アルトゥール・ハゼリウス1833-1901)により開演</p> <p>●デンマーク生活協同組合連合会 FDB (Fællesforeningen for Danmarks Brugsforeninger) 設立</p>
<p>○第5回パリ万国博覧会</p> <p>○ノルウェー、スウェーデンから独立(立憲君主制の新生ノルウェー王国を樹立)</p> <p>○ドイツ工作連盟結成</p> <p>○サラエボ事件・第一次世界大戦勃発(～1918)</p> <p>○12/6フィンランド、ロシアから独立(ロシア十月革命)</p> <p>○フィンランド内戦・ロシア領カレリアの義勇軍派遣</p> <p>○Bauhaus開校(～1933)、ドイツ・ヴァイマルに設立(工業的大量生産を前提とした機能主義)</p> <p>○北欧4ヵ国、国際連盟加盟</p> <p>○ソビエト連邦成立</p> <p>○パリ現代装飾美術産業美術国際博覧会(アール・デコ博覧会)</p> <p>○ドイツ工作連盟シュトゥットガルト生活博覧会</p> <p>○アメリカに端を発した世界大恐慌</p> <p>○シカゴ博覧会 ○第5回ミラノ・トリエンナーレ</p> <p>○第6回ミラノ・トリエンナーレ</p> <p>○パリ博覧会</p> <p>○ドイツ・ソ連ポーランド侵攻 ○ニューヨーク博覧会</p> <p>○第7回ミラノ・トリエンナーレ</p> <p>○フィンランド・ソ連との冬戦争 ～1940</p> <p>○ナチス、デンマーク・ノルウェー侵攻 ～1945</p> <p>○フィンランド・ソ連との継続戦争 ～1944</p> <p>○アイスランド共和国として、デンマークから分離・独立</p> <p>○ベルリン陥落・ポツダム会談</p> <p>○デンマーク・ノルウェー、サンフランシスコ会議にて国際連合へ加盟</p> <p>○スウェーデン国際連合へ加盟</p> <p>○第8回ミラノ・トリエンナーレ</p> <p>○ノルウェー、デンマーク、アイスランドがNATOに加盟</p>	<p>1900 1904 1905 1907 1908 1914 1916 1917 1918 1919 1920 1922 1924 1925 1927 1928 1929 1930 1931 1932 1933 1936 1937 1939 1940 1941 1942 1944 1945 1946 1947 1949</p>	<p>●Ellen Key(エレン・ケイ1849-1926) 著書 Barnet århundrade(児童の世紀) 刊行</p> <p>●デンマーク銀器デザインメーカーGEORG JENSEN創業</p> <p>●スウェーデン工芸協会[Svenska Slöjdföreningen Tidskrift] 発行(1932年[FORM]に名称変更)</p> <p>●デンマーク工芸協会設立 Landsforeningen Dansk Kunsthåndværk</p> <p>●カール・ハンセン創業</p> <p>●アラビア製陶所独立</p> <p>●Wilhelm Kåges(ヴィルヘルム・コーゲ1889-1960) スウェーデン工芸協会推薦によりグスタフスベリ製陶所入社</p> <p>●Edvald Hald(エドヴァルド・ハルド1883-1980) レルストランド製陶所アートディレクターとして招聘</p> <p>●「生活博覧会Hemutställningen」(ストックホルム市ユルスゴーデン/リリエヴァルカス・ギャラリー(Liljevalchs Konsthall) 及びヨテポリ、マルメで開催)</p> <p>●ノルウェー工芸協会設立 Foreningen Brukskunst</p> <p>●Eliel Saarinen設計、「現ヘルシンキ中央駅」竣工</p> <p>●Gregor Paulsson(グレゴール・ポウルソン1889-1977)による啓蒙パンフレット Vackrare Vardagsvara(日常生活に美を)出版</p> <p>●ポウルソン、スウェーデン工芸協会ディレクターに就任</p> <p>●デンマーク王立芸術アカデミーに家具科創設(コア・クリント1944家具科初代教授)</p> <p>●キャビネットメーカーズギルド展開催(～1966)</p> <p>●Erik Gunnar Asplund設計、ストックホルム市立図書館市竣工</p> <p>●デンマーク、陶房Nylund &amp; Krebs Keramiske Vaerksted、イスレウ(Islev)に設立</p> <p>●デンマーク、Saxbo(サクスポ)へ名称変更、ヘアレウ(Herlov)に移動 ストックホルム博覧会(スウェーデン工芸協会主導)Erik Gunnar Asplund主幹(グンナル・アスプルンド1885-1940)インターナショナルスタイル様式 美術工芸学校コペンハーゲンに創設</p> <p>●グンナー・アスプルンド等共著スウェーデン近代建築マニフェスト「ACCEPTERA」刊行</p> <p>●フィンランド・アラビア製陶所にアート・デパートメント設立</p> <p>●グンナー・ニールンド(1904-1989)レルストランド製陶所ディレクター就任</p> <p>●Den Permanente開設(コペンハーゲン・ヴェスタポートビル)</p> <p>●Kult Eckholm(クルト・エクホルム1907-1975)アラビア製陶所 アート・デパートメントのディレクターに就任</p> <p>●スウェーデン・レルストランド製陶所にアート・デパートメント設立</p> <p>●ALVER AALTO設計、villa Mairea(マイレア邸) 竣工</p> <p>●Erik Gunnar Asplund(1885-1940) 設計、Skogskyrkogården(森の墓地) 竣工</p> <p>●Jensen/kaare klint設計「グランドヴィ教会Grundtvigs Kirke」竣工</p> <p>●グスタフスベリ製陶所にアート・デパートメント、通称「G-Studio」設立</p> <p>●デンマーク生活協同組合連合会家具部門(FDB Mobler) 設立</p> <p>●エクホルムに誘われ、カイ・フランクがアラビア製陶所に入社</p> <p>●FDBモブラー初の専門店オープン(コペンハーゲン)</p> <p>●コア・クリント王立芸術アカデミー家具科初代教授に就任</p> <p>●Den Permanente再オープン</p>
<p>○第9回ミラノ・トリエンナーレ</p> <p>○北欧理事会、スカンディナビア三王国が中心となり設立</p> <p>○北欧会議第一回総会(コペンハーゲンにて開催)</p> <p>○北欧4ヵ国間パスポート不要越境協定(Nordic passport union)</p> <p>○第10回ミラノ・トリエンナーレ</p> <p>○第11回ミラノ・トリエンナーレ</p> <p>○第12回ミラノ・トリエンナーレ</p> <p>○第13回ミラノ・トリエンナーレ</p> <p>○パリ5月革命 ○第14回ミラノ・トリエンナーレ</p> <p>○ドル・ショック</p> <p>○オイル・ショック ○第15回ミラノ・トリエンナーレ</p> <p>○デンマークEC加盟 ○北欧環境保護条約締結</p> <p>○ベトナム戦争終結</p> <p>○第二次オイルショック</p>	<p>1951 1952 1953 1954 1955 1957 1956 1957 1958 1958 1959 1960 1964 1966 1968 1971 1973 1974 1975 1976 1979</p>	<p>●デザイン誌「mobilia」創刊(～1984)</p> <p>○スカンジナビアのデザイン展、アメリカ・カナダ巡回</p> <p>●ヴィルヘルム・コーゲ来日 / カイ・フランク来日</p> <p>○「日本のかたち展(Japansk Form)」NKデパートにて開催</p> <p>○スカンディナビアのフォルム展、フランス・ベルギー巡回</p> <p>●カイ・フランク、来日</p> <p>●スティグ・リンドベリ来日</p> <p>●アルネ・ヤコブセン設計「SASロイヤル・ホテル」竣工</p> <p>●スウェーデンマルメにデザイン・センター設立</p> <p>●キャビネットメーカーズギルド展終了</p> <p>●スウェーデン工芸協会名をSvensk Form(the Swedish Society of Crafts and Design)へと変更</p>